

第2次 札幌市まちづくり 戦略ビジョンを 学ぼう

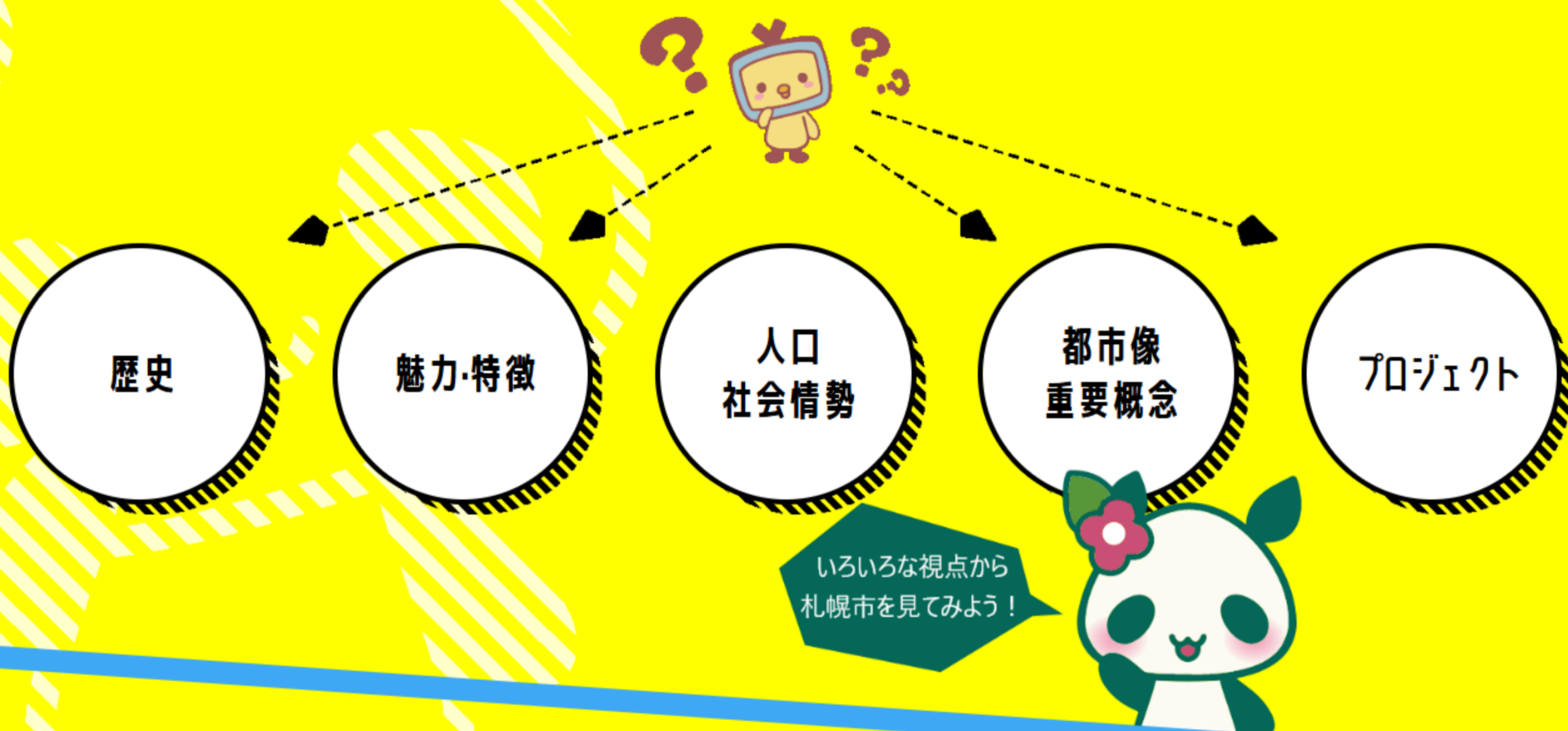
戦略ビジョンを知る

まちづくりを考える

資料を見る

戦略ビジョンを知る

札幌市のまちづくりがどのように進められていくのか、
歴史や魅力、重要概念・プロジェクトなど
いろいろな視点から見てみよう！



まちづくりを考える

これからの札幌市のまちづくりについて、
自由な発想でレポートを作成してみよう！

これからの
札幌を思い浮かべながら
考えてね

レポート
作成

資料を見る

札幌市についてのいろいろなデータや資料を見てみよう！

グラフ
データ

イメージ
映像

関連サイト
リンク集

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちが、それぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れ、世界的な大都市へと飛躍的な発展を遂げてきました。

明治・大正

1869年(明治2年)～

開拓使が設置され、初代長官に鍋島直正が、判官に島義勇や岩村通俊らが任命されました。蝦夷地は北海道と改称され、島義勇らは本府地の選定を開始し、その後、東久世通禧や黒田清隆らが視察に訪れ、札幌への本府建設が決定されました。黒田清隆は、ホーレス・ケブロンを始めとして、エドウィン・ダンなどの多くの外国人技師らを雇い入れ、先進国の近代的な農工業の知識や経験、専門技術などを受け入れることにより、開拓の革新を図りました。

1876年(明治9年)

現在の北海道大学の前身である札幌農学校が開校し、マサチューセッツ州立農科大学からウィリアム・クラークを教頭として迎えました。

1886年(明治19年)

北海道庁が札幌に設置され、初代長官には岩村通俊が命ぜられました。



1897年(明治30年)の繁華街(南1西3)
＜資料＞札幌市



今のまちの中心部とは
だいぶ景観が違うね

1922年(大正11年)

8月1日市制が施行され、当時の人口は127,044人(戸数22,915戸)、面積は約24㎢でした。

昭和

1927年(昭和2年)

豊平町・琴似村・藻岩村・白石村・札幌村の1町4村の一部を含む地域が都市計画区域に指定され、上下水道や道路の整備などが進みました。

1947年(昭和22年)

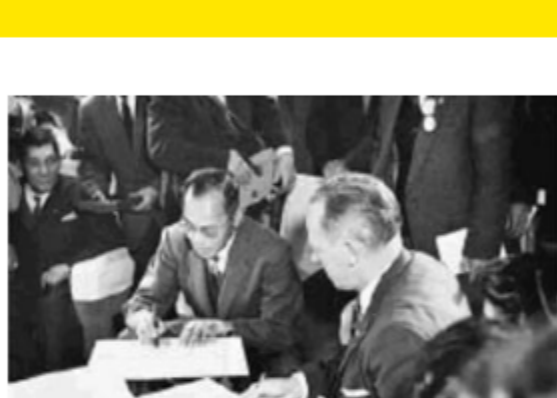
市長が初めて公選となりました。

1950年(昭和25年)

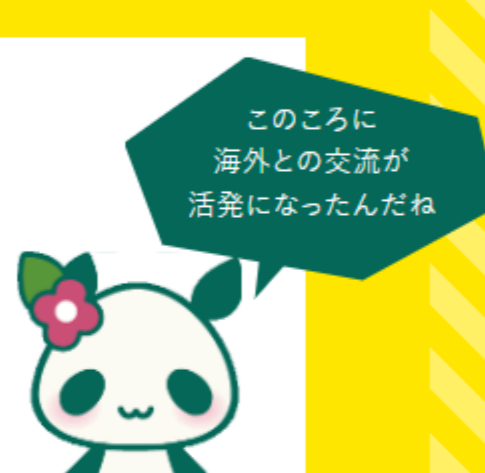
第1回さっぽろ雪まつりが開催されました。

1959年(昭和34年)～

海外の都市との交流も活発となり、ポートランド市(アメリカ合衆国)を始め、その後もミュンヘン市(ドイツ連邦共和国)、瀋陽市(中華人民共和国)と姉妹・友好都市の盟約を結びました。



ポートランド市との姉妹都市提携協約書の調印の様子
＜資料＞札幌市



このころに
海外との交流が
活発になったんだね

1963年(昭和38年)

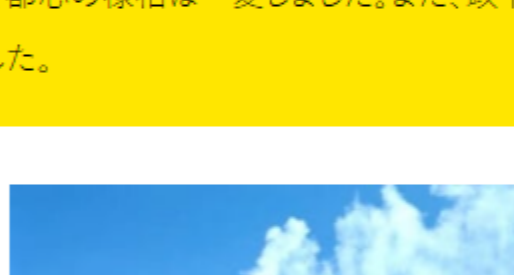
「札幌」をより豊かで明るく住みよいまちにすることを志願し、市民の総意として札幌市長尊章が制定されました。

1970年(昭和45年)

人口が100万人を超えました。

1972年(昭和47年)～

第11回冬季オリンピック競技大会の開催が決定すると、その関連施設のほか、市役所新庁舎、地下街、地下鉄などが整備され、都心の様相は一変しました。また、政令指定都市に移行し、中央・北・東・白石・豊平・南・西の7区体制となりました。



第11回冬季オリンピック競技大会
＜資料＞札幌市



35か国から1128人の
選手が参加したよ

平成・令和

1989年(平成元年)

人口の増加などを受け、白石区と西区を分区分し、それぞれ厚別区と手稲区を設置しました。

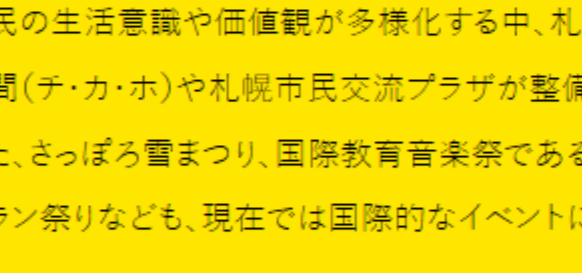
1997年(平成9年)

豊平区を分区分し、清田区を設置したことにより10区体制となりました。

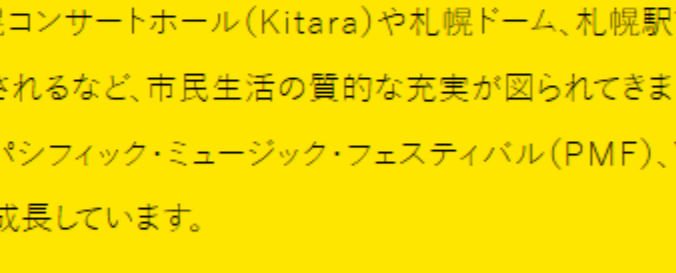
2015年(平成27年)～

人口が195万人に達しました。

市民の生活意識や価値観が多様化する中、札幌コンサートホール(Kitara)や札幌ドーム、札幌駅前通地下歩行空間(チカ・ホ)や札幌市民交流プラザが整備されるなど、市民生活の質的な充実が図られてきました。また、さっぽろ雪まつり、国際教育音楽祭であるパンフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)、YOSAKOIソーラン祭りなども、現在では国際的なイベントに成長しています。



札幌ドーム
＜資料＞札幌市



パンフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)
＜資料＞札幌市

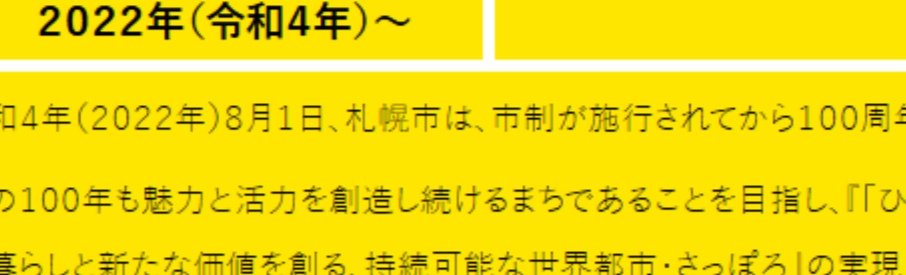


まちづくりが
形になって
充実してきたね

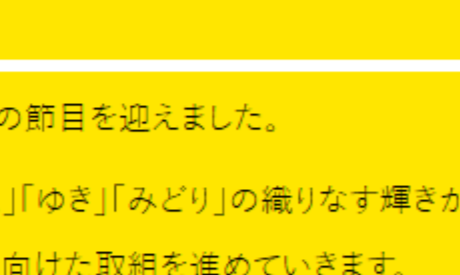
2022年(令和4年)～

令和4年(2022年)8月1日、札幌市は、市制が施行されてから100周年の節目を迎えました。

次の100年も魅力と活力を創造し続けるまちであることを目指し、「[ひと]」「[ゆき]」「[みどり]」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろの実現に向けた取組を進めていきます。



記念式典の様子
＜資料＞札幌市



札幌が、もっとはじまる。
ロゴマーク・キャッチフレーズ
＜資料＞札幌市

みんな、知ってる？



さっぽろ
まめちしき



「さっぽろ」の地名の由来は何？

「札幌」の地名の由来は、アイヌ語が元になっていると言われています。諸説ありますが、なかには、「サツ・ポロ・ベツ」(乾いた・大きな・川)とする説や、「サリ・ポロ・ベツ」(その葦原(あしはら)が・広大な・川)とする説があります。豊平川の乾いた扇状地の方を見て「サツ・ポロ・ベツ」、下流の湿地の方を見て「サリ・ポロ・ベツ」…どちらも納得！という感じですね。

魅力・特徴

札幌市は、豊かな自然環境に恵まれていて、四季折々の表情を楽しめる政令指定都市です。年間で約5mもの降雪がありますが、雪も魅力の一つです。公共交通機関も発達していて移動もスムーズなので、観光客にも人気があります。

一つ前へ戻る

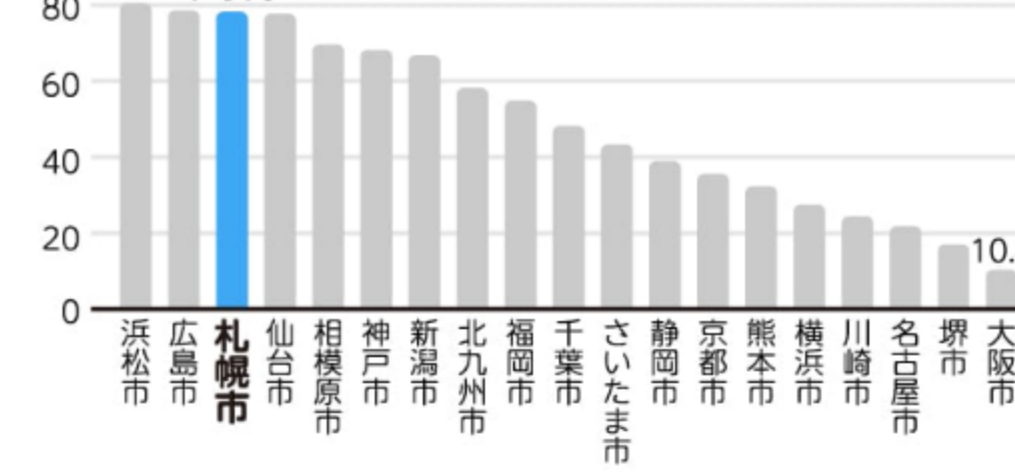
トップページへ

豊かな自然環境

みどり豊かな自然

札幌市は、石狩平野の西部部にあり、豊平川など多くの河川が流れています。市街地の周囲にはみどり豊かな自然環境が広がり、政令指定都市の中でも高い緑被率となっています。

緑被率



<資料>国土交通省「令和2年度都市緑地の保全及び緑化の推進に関する施策の実績調査」
※数値不明の都市を除く政令指定都市比較を記載

都会なのに自然環境が豊かなんだね



豊平川 <資料>札幌市

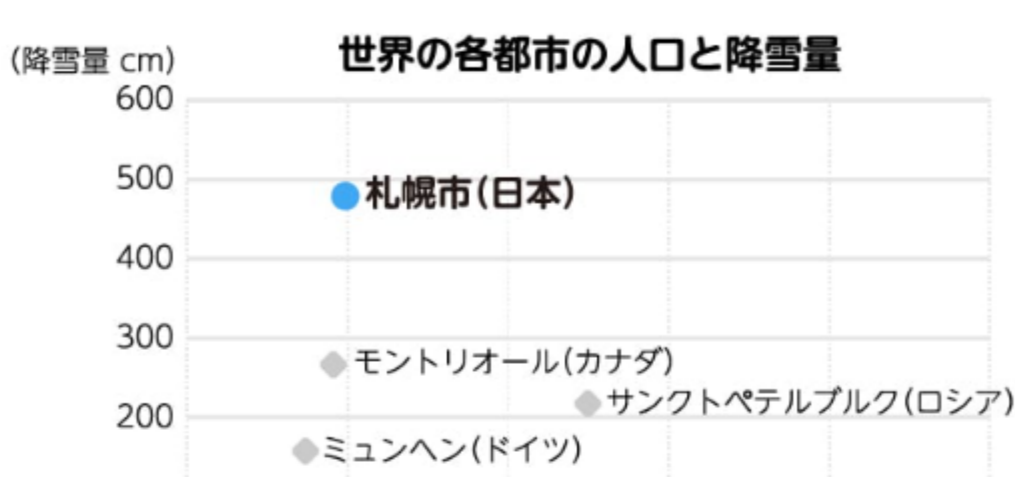


摩訶山から見た市街地 <資料>札幌市

変化に富んだ気候

四季の変化が鮮明で、夏は過ごやすく、冬には雪に覆われます。年間約5mの降雪がありながら人口190万人を超える札幌市は、自然と都市機能が共存する世界に類を見ない都市です。

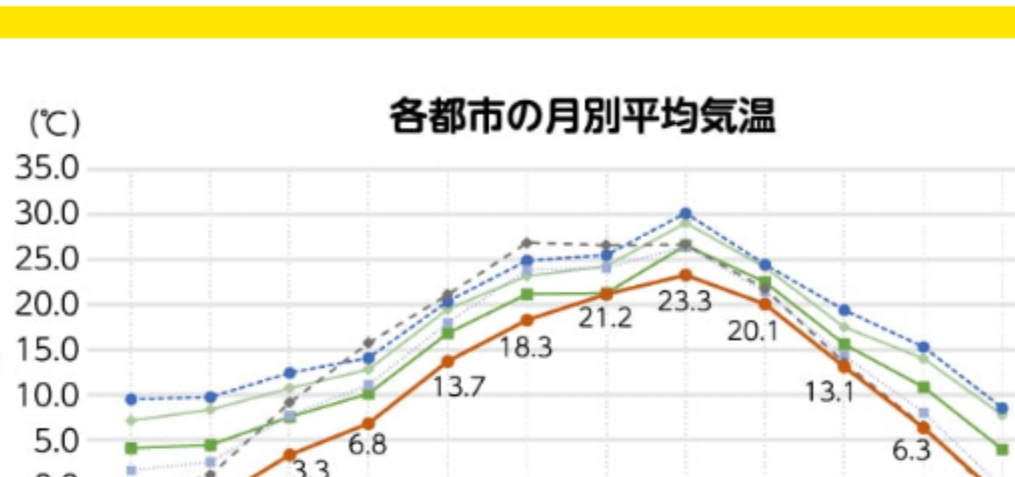
世界の各都市の人口と降雪量



※人口と降雪量の計測年は都市によって異なる(札幌市の人口は令和4年現在、降雪量は1991年(平成3年)から2020年(令和2年)までの平均としている。)人口が100万人以上で降雪地域に位置する世界の主要都市との比較

札幌市は雪が多いのに人口も多いんだね

各都市の月別平均気温



※日本の各地域(北日本・東日本・西日本)の主要都市と日本とはほぼ同緯度に位置する東アジアの主要都市との比較

他の都市より1年を通して気温が低いんだね

札幌市の春夏秋冬

四季がはっきりしていて、季節ごとに魅力がたくさんあるね



モエシ沼公園 <資料>札幌市



幌見峠 <資料>札幌市



定山溪 <資料>札幌市



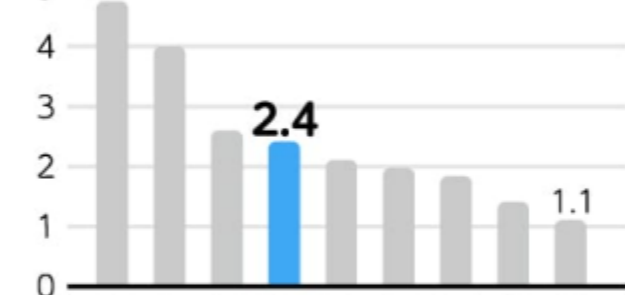
札幌国際スキー場 <資料>札幌市

都市機能が充実

地下鉄やJRなどの公共交通ネットワーク

地下鉄は札幌市の公共交通機関の主役を担っていて、全での長さを合わせると48kmもあります。JRは市民の移動手段や大量輸送機関として活躍していて、JR函館本線・JR千歳線・JR札幌線の市内の長さを合わせると50.6kmになります。路線バスは市民の身近な移動手段となっていて、路面電車は都心や周辺部における利便性を支えています。

人口10万人当たりの地下鉄営業キロ



地下鉄・JRのネットワーク図



<資料>各市(2018年度(平成30年度))

<資料>札幌市

大学などの研究機関や医療機能が充実

大学などの研究機関が数多く集まり、「再生医療」や「がん治療」、「AI研究」などの分野で先進的な研究が行われています。人口10万人当たりの一般病院数は高い水準にあり、国内でも有数の医療機能が集積された都市です。

都心から近いウインタースポーツ環境

雪を楽しむ文化が根付いている札幌市には、世界でも有数のパウダースノーを楽しむことができるスキー場が点在しています。

身近な文化芸術

2006年(平成18年)に「創造都市 さっぽろ宣言」を行い、2013年(平成25年)には「メディアアーツ都市」として、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が認定されました。

札幌文化芸術劇場(hitaru)を始め、札幌芸術の森や札幌コンサートホール(Kitara)などの文化芸術施設があり、市民が身近に文化芸術を楽しむことのできる環境です。



札幌文化芸術劇場(hitaru) <資料>札幌市



札幌コンサートホール(Kitara) <資料>札幌市

みんな、知ってる？

さっぽろまめちしき

札幌市の水道の配水管を全部つなげると、どのくらいの長さになる？

答えは、約6,080km(令和4年度末)。これは、だいたい札幌市からハワイ(6,335 km)やインド(6,239 km)にまで届きそうな距離。私たちの住むまちの地下に、これだけの長さの配水管が網の目のように張りめぐらされていると思うと、不思議ですよね。札幌の水道水は自然豊かな水源で生まれ、検査や管理もしっかり行われているので、美味しく、安全・安心に飲むことができます。

都市としての高いブランドイメージ

民間調査機関による魅力度ランキングで2位になるなど、全国的に高い評価を受けています。特に観光客満足度や食品の商品想起率などが高くなっています。

地域ブランド調査2025の結果

	1位	2位	3位	4位	5位
魅力度	函館市	札幌市	京都市	小樽市	鎌倉市
情報接触度	京都市	渋谷区	横浜市	札幌市	大阪市
居住意欲度	横浜市	神戸市	鎌倉市	福岡市	札幌市
観光意欲度	札幌市	小樽市	京都市	鎌倉市	札幌市
商品想起率(食品)	夕張市	札幌市	利尻町	松阪市	仙台市

<資料>株式会社ブランド総合研究所

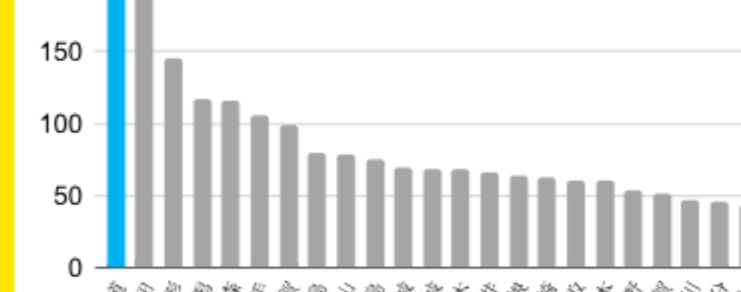
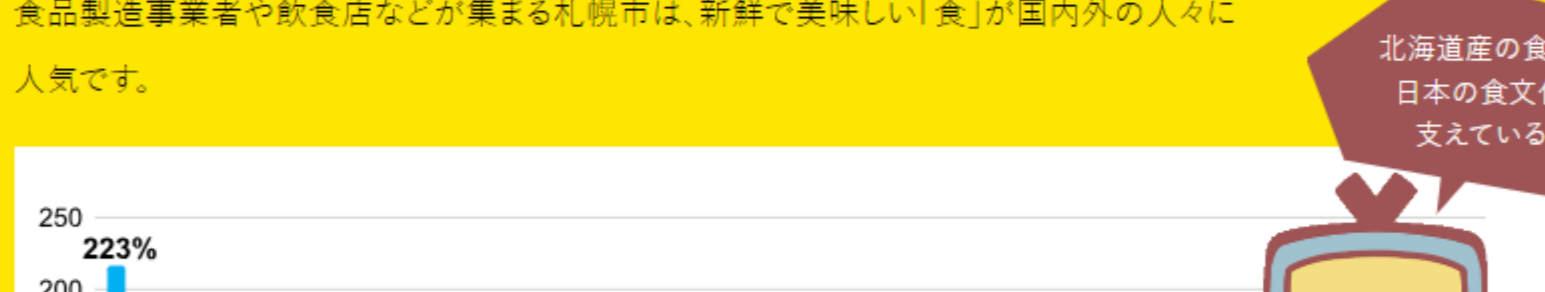
どの項目でも上位にランクインしているよ

食の魅力

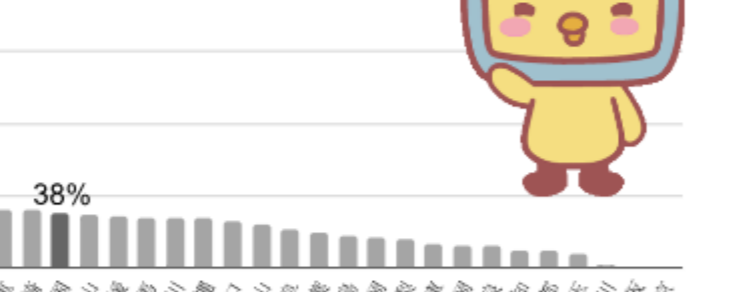
北海道は食料自給率が都道府県で1位で、北海道産の農畜水産物が国内の食を支えています。

食品製造事業者や飲食店などが集まる札幌市は、新鮮で美味しい「食」が国内外の人々に人気です。

北海道産の食材が日本の食文化を支えているよ



札幌ラーメン <資料>札幌市



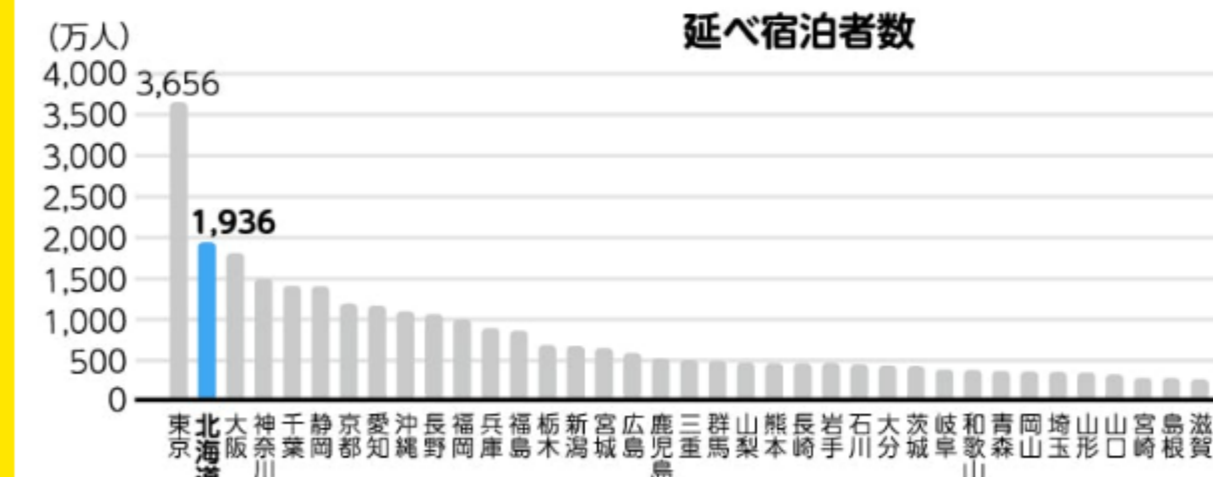
札幌スイーツ <資料>札幌市

観光満足度の高さ

北海道は、雄大な自然環境や豊富な食などが人気で、東京都の次に宿泊客数が多い人気観光地です。札幌市は北海道観光における中心都市であり、年間を通じた多彩なイベントや、交通アクセスも良く、観光客から魅力的なまちとして評価されています。

札幌市にもたくさんの観光客がきているんだよ

延べ宿泊者数



<資料>観光庁「宿泊旅行統計調査」(2021年(令和3年))



YOSAKOIランタン祭り <資料>YOSAKOIランタン祭り推進委員会

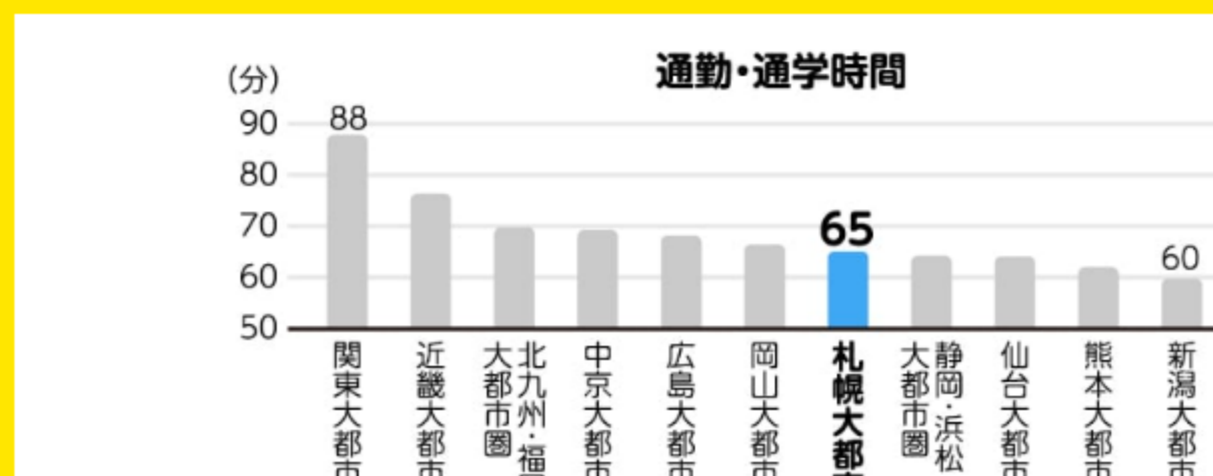


さっぽろオーストラリアフェスティバル <資料>札幌市

住みやすさ

札幌圏は関東圏・近畿圏と比べて通勤・通学時間が短いほか、市内の賃貸住宅の1か月当たりの家賃やオフィス賃料が他都市・地域と比べても低く、ゆとりある都市生活が可能です。

通勤・通学時間



<資料>総務省「社会生活基本調査」(2016年(平成28年))

札幌市の人口は、今後の予測で2040年代には100万人を割り込む見込みで、働く世代と高齢者の割合が変化していくことが予測されています。

これからの社会情勢を踏まえて、新しいまちづくりや、仕組みを考え直すことが求められています。

人口

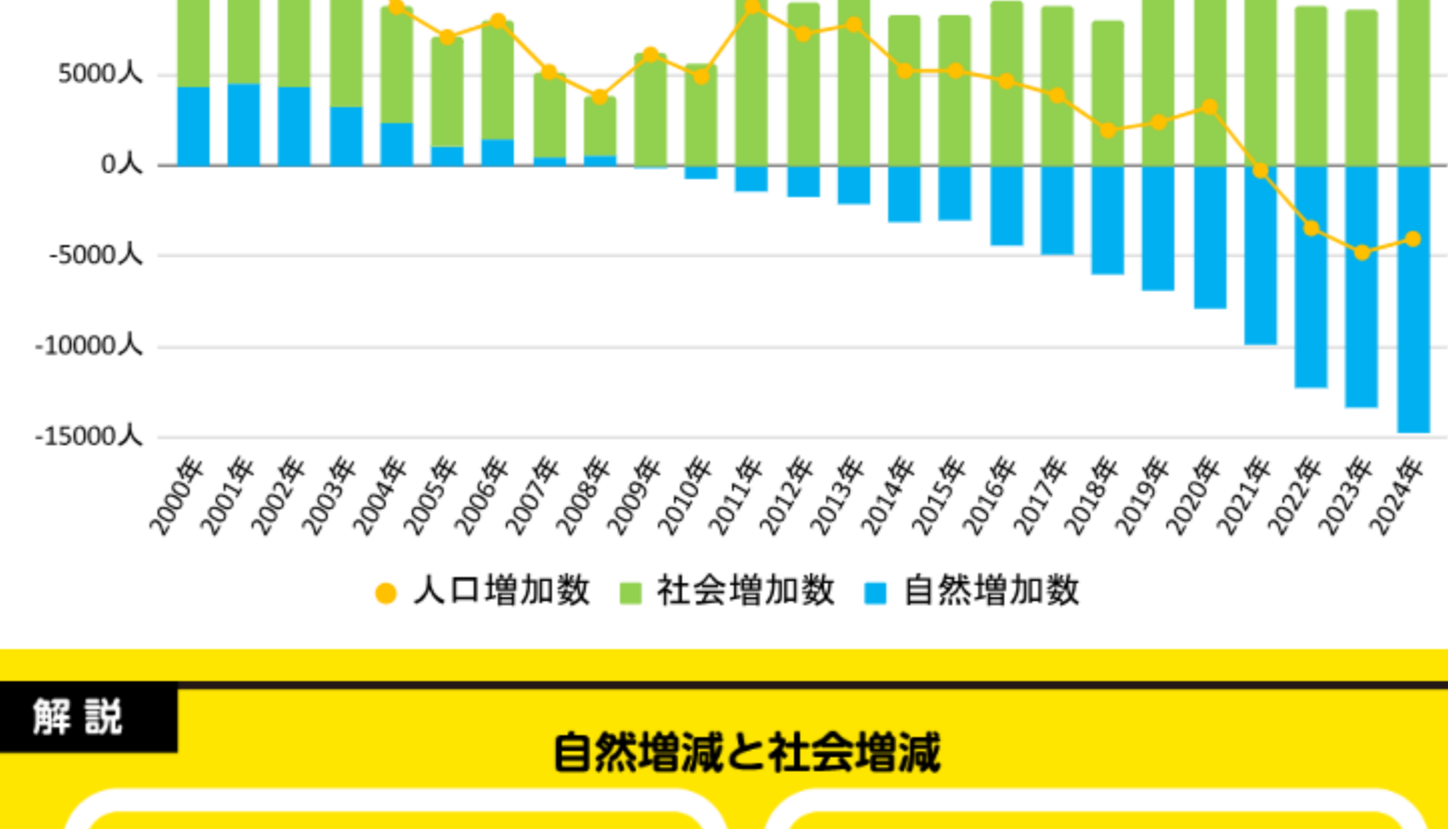
札幌市の人口は、2009年(平成21年)以降、出生数を死亡数が上回る「自然減少」となっています。一方、市外からの転入者数が市外への転出者数を上回る「社会増加(転入超過)」が続いてきましたが、これまで増加してきた札幌市の人口も減少していくと予想されています。

また、65歳以上の高齢者人口は、今後も増加し続け、2040年代にはピークを迎えることも見込まれています。

近年、少子化が進んでいるほか、就職や転勤を主な理由として20歳代の若年層が遠外へ出ていく傾向も続いていて、推計では2040年代に100万人を割る見込みです。

このような人口構造の変化が予想される中、今後は、出生率の上昇や20歳代の若年層が遠外へ出て行かないための取組を推進していくことが求められています。

札幌市の人口動態



解説 自然増減と社会増減

自然増減

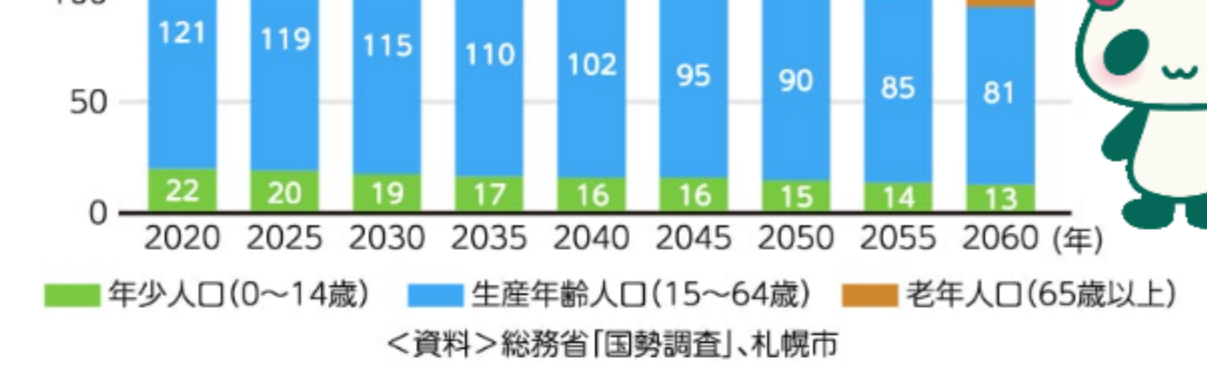
子どもが生まれる、人が亡くなることによる人口の増減。人が亡くなる数より生まれる子どもの数が多くなれば、自然増減はプラスとなる。

社会増減

引っ越しで人が入ってくる(転入)、出ていく(転出)ことによる人口の増減。転出者より転入者が多くなれば、社会増減はプラスとなる。

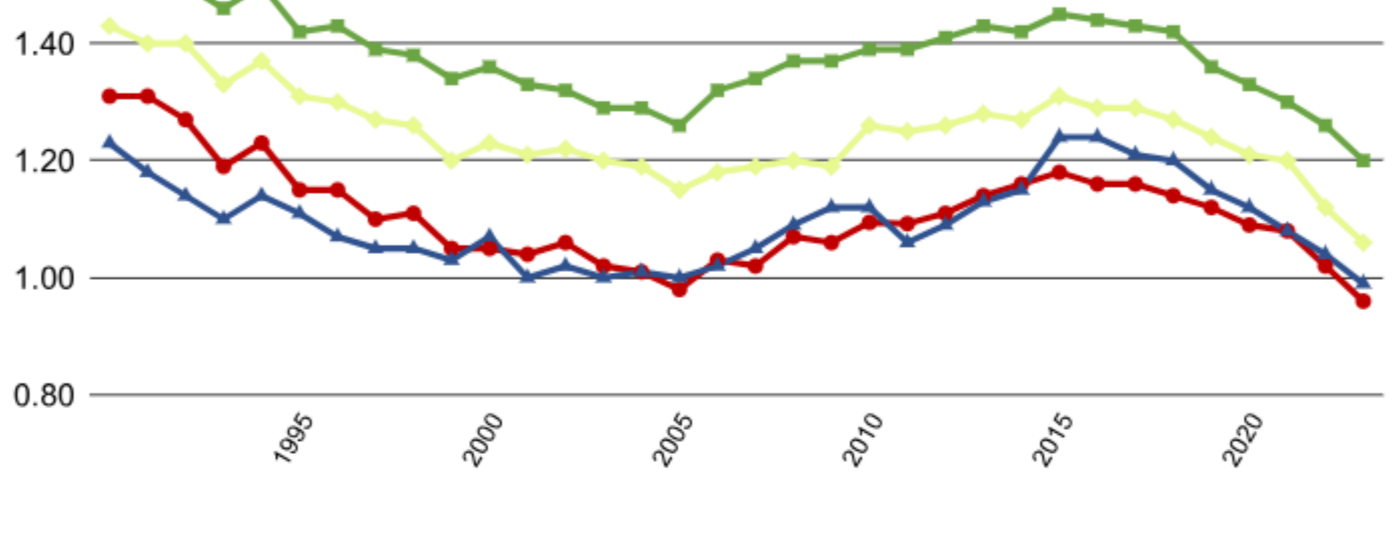
札幌は2009年(平成21年)に自然増減がマイナスとなり、生まれる人より亡くなる人の数の方が多くなっています。このままだと人口は減ってしまうのですが、社会増加(札幌に引っ越ししてくる人の数)が多かったので、人口は増え続けています。しかし2021年(令和3年)においては、社会増加が自然減少を下回り、増え続けてきた札幌市の人口が減少局面を迎えています。

札幌市の人口の将来見通し



子どもや働き盛りの人たちの比率が下がっていくんだね

合計特殊出生率



社会情勢

価値観やライフスタイルの多様化

札幌市では、互いの個性や多様性を認め合い、誰もが生きがいと誇りをもち、快適なく安心して暮らすことができる社会の実現を目指してきました。価値観やライフスタイルが多様化する中、互いに支え合い、これまで以上に、心のバリアフリーを推進していくことや、子どもの貧困、児童虐待などの様々な課題に的確に対応していくことが求められています。



お互いに支え合うことが大切なんだね

人生100年時代の到来

少子高齢化が進む中、人生100年時代を迎えようとしています。国では、これまでの「教育・仕事・老後」という人生ではなく、生涯充実した人生を可能にする社会の実現を目指しています。

生涯学習や多様な就労など、高齢者が社会参加できる環境を整え、介護予防、フレイル対策など、健康に長生きできるようにすることが求められています。

札幌市の30~50歳代は、心や体へのストレスが他の世代より多く、働き方や健康に関する動きかけも重要になります。また、運動習慣は子どもの頃の経験が重要で、健康的な運動習慣づくりに向けた取組なども必要になります。



フレイルのイメージ図
＜資料＞厚生労働省

いつまでも健康で元気に暮らせるといいね

デジタル技術の急速な進歩

国では、急速に進化しているデジタル技術を地方から実用し、新たな変革を起こすことにより、地方と都市の差を縮め、地方の活性化を進めています。将来に向けた積極的な成長戦略を進め、Society 5.0の実現を目指しています。

札幌市においては、札幌市と民間データの一体的な活用や、ICTの積極的な活用を推進し、社会全体のデジタル改革の実現に向けた取組を行い、生活をより豊かに変革させる「デジタルトランスフォーメーション(DX)」を実現していく必要があります。一方で、デジタル格差が生じないように対策も求められています。



＜資料＞内閣府

デジタル技術も上手に活用していくこう

気候変動などに伴う地球規模での環境保全の動き

気候変動による災害が世界各地で頻発しています。2015年(平成27年)には、平均気温の上昇を抑える世界共通の長期目標「パリ協定」が採択されたことを受け、国では、2050年(令和32年)までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標を掲げています。金融分野では、企業の環境面への取組(環境・社会・企業統治)を評価の一つとして捉える動きが拡大しています。

次の世代に豊かな地球環境を引き継いでいくため、エネルギーの有効活用に加えて、再生可能エネルギーへの転換を図るなど、環境への負荷を最小限にとどめる持続可能な脱炭素社会を形成していくことが求められています。



ゼロカーボンを目指しているこう

都市のリニューアル

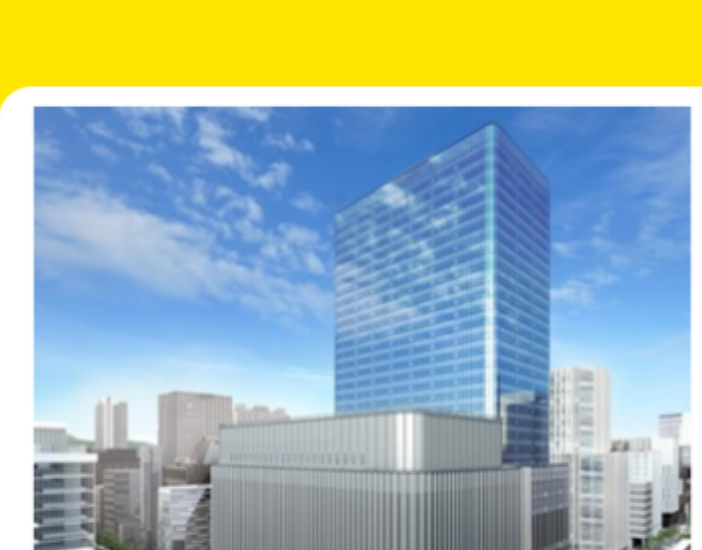
1972年(昭和47年)の第11回冬季オリンピック競技大会の開催をきっかけとして、地下鉄や区役所などの公共施設がたくさんできたり、都心を中心に民間ビルなどが多く整備されましたが、現在では老朽化が進んでいます。こうした中、現在、北海道新幹線の建設工事が進められており、札幌まで延伸されると、人の流れや物流が大きく変化していくことが見込まれています。民間の開発も更に活発になるので、この機会を最大限に活用し、都市のリニューアルを進めていくことが求められています。

今後のまちづくりは、市民のパブリックスペース(街路、公園、広場、公園広地など)を居心地良く、人が歩きやすくなるような空間として活用し、心身の健康効果や、人と人が出合い、交流する機会を積み出し、生活の質の向上に取り組んでいくことが求められています。

また、公共施設のリニューアルは、適正化と機能向上だけでなく、民間施設との連携や、利便性、コスト、収益性の観点なども考えていきます。



＜イメージ提供＞JR北海道
北海道新幹線 H5系



＜資料＞札幌駅南口北4西3地区市街地再開発組合
北4西3地区における再開発のイメージ



みんな、知ってる？

さっぽろ まめちしき

札幌市10区のうち、いちばん広い区はどこ？

札幌市の面積は全部で1,121 km²。そのうち南区の面積は657.48km²で、札幌の約58.7%を占め**ダントツの1位**です。南区はなんと、東京都の23区(627.53 km²)よりも広い面積。ちなみに、札幌市は1972年に7区(中央区、北区、東区、白石区、豊平区、南区)でスタート。人口増加などの理由でさらに区が分かれて、今の10区になりました。

頻発する自然災害

2018年(平成30年)に発生した北海道胆振東部地震をはじめとして、近年、北海道においても自然災害が増え、各地域で大きな被害が出ています。札幌市は、活断層や多くの河川が存在し、地震や洪水などによる被災のリスクを抱えています。

こうした被災のリスクについて誰もが正しい認識をもつこともより、自然災害などの危険に直面しても、人命を守り、被害や影響を最小限に抑えていくことが必要になります。

災害時にも日常生活や経済活動が続けられるよう、ライフライン[?]や社会インフラの維持[?]などの在り方について検討を進めながら、被災後に早く元の生活に戻れるような取組など、自己回復力や強さの向上に向けた取組を進め、適切に備えていくことが求められています。



北海道胆振東部地震による道路陥没
＜資料＞札幌市

札幌市でも大きな被害が出たんだよ

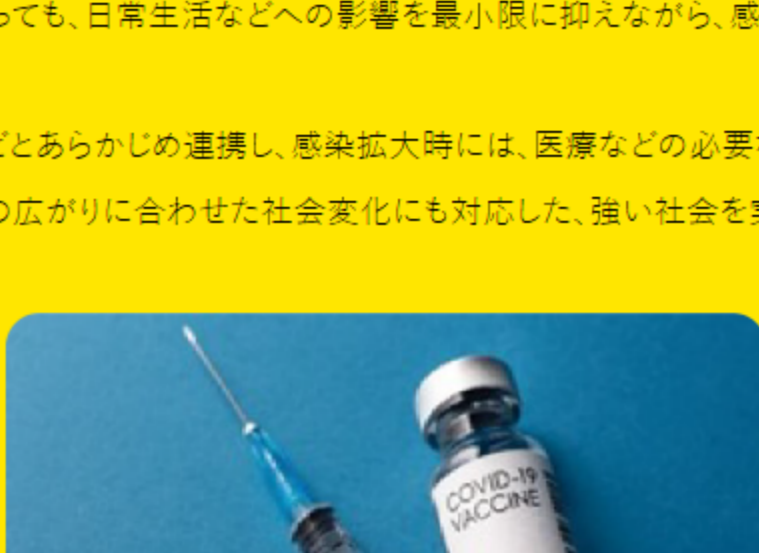
新型コロナウイルス感染症の感染拡大

2020年(令和2年)に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、札幌市においても感染が広がり、日常生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしています。

例えば、外出や人との交流の機会が減り、不安や身体機能の低下など健康上の問題が心配されていて、こうした問題への対応には、感染症の対策を徹底した上で活動できるような機会や、オンライン等を活用して人との交流や運動ができるような機会が必要になります。

今後こうした感染症が広がっても、日常生活などへの影響を最小限に抑えながら、感染が広がらないようにすることが重要になります。

そのためには、医療機関などとあらかじめ連携し、感染拡大時には、医療などの必要な支援を確実に行っていく必要があります。また、感染症の広がりに合わせた社会変化にも対応した、強い社会を実現するための取組も必要になります。



ワクチンのイメージ
＜資料＞札幌市